

議 長  
確認印

林業振興対策調査特別委員会会議録

1 日 時	開会 平成 27 年 3 月 16 日 15 : 58 閉会 平成 27 年 3 月 16 日 16 : 18
2 場 所	委員会室
3 出席委員	藤田高志、吉田克則、鈴木 茂、鈴木安次、小峰由久、鈴木孝則(副)、鈴木幸江、小貫初枝、割貝寿一、大縄武夫、小林達信(長)、藤田一男、藤田恵二
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	
6 職務出席者	議長鈴木道男 議会事務局長、書記
7 説明員	
8 付議事件	第 1 運営について
9 議事の経過	<p>副委員長：開会 委員長：あいさつ 第 1 運営について 委員長：特別委員会をどう進めるか、各委員から意見を出していただきたい。林業に関しては大雑把なところは分かって細かいところまでは分からない。林業振興には何がよいかを含め、わからなところはありますが、皆さんの意見をお願いします。</p> <p>鈴木(茂)委員：伐期を迎えた森林が放置されている。価格の低迷、従事者の減少、林家の意識低下などがあげられる。これらを打開する方法を見つけなければならない。現状把握と課題の調査から打開策を見つけなければならない。製材業者、搬出業者、流通センター、林家などの聞き取りを行う。最終的には人工林の更新を塙方式としてできないか。苗木代は林家が負担してもその後の経費は第三者にやってもらうことが可能となれば更新できる。お金の問題はありますが。</p> <p>大縄委員：郡内に林業関係の研修施設ができないか。値段が安いので林家に入るお金が少ないのが問題。</p> <p>鈴木(安)委員：森林再生事業がうまくいけばよい。調査委託にしても作業員がいない。従事者の高齢化と従事者不足などの問題がある。まず、地元の業者から話を聞くことが必要。</p> <p>小峰委員：地元の業者から話を聞くことが第 1 である。</p> <p>吉田委員：森林整備の事業を実施すれば林業振興になる。その事業を成功させるために議会はかかわっていく。</p> <p>藤田(高)委員：国の事業の 5 か年計画にそのような内容も入っている。これらを調べる必要がある。</p> <p>議長：林業研修所誘致は県も応援しようとしている。進んでいる仕事であるのでそれをまず議会として取り組み、その後林業全般に関し進めることでどうか。</p> <p>割貝委員：中国、韓国への木材の輸出が増えたとの報道があった。企業は企業で研究している</p>

はず。業者の実態を聞くのが先決。

鈴木(茂)委員：森林再生事業の内容は主に間伐、林道等整備である。全伐して循環させることは入っていないように思う。間伐だけでなく、植林、保育等まで循環させることが重要である。

藤田(恵)委員：補助事業はあるはずだが、そもそも魅力がないから進まない。後継者の育成は急務である。伐採は進んでいるがそのあとの植林が進んでいない現状はあるが、それほど心配する問題でなないと思う。

小峰委員：林業再生事業で相当のお金が来ていると思う。林業再生ばかりでなく経済波及効果を狙うためには後継者の育成は急務である。是非事業者との懇談会を望む。

大縄委員：鮫川村では女性の山林作業者がいるという。このような方との懇談もよいのではないかな。

藤田(一)委員：人手不足で事業そのものできない現状がある。

鈴木(幸)委員：西栗倉村の事業は参考になる。

委員長：意見がなければこれで終わりたい。

委員長：これで、議事を終了する。特別委員会を終わる。

副委員長：閉会

埴町議会委員会条例の第 27 条の規定により署名する。

平成 年 月 日

林業振興対策調査特別委員長